学校と博物館をつなぐ情報誌　No.２２８（令和３年７月号）

いのちのたび

〒805-0071　北九州市八幡東区東田二丁目４番１号
Tel 681-1011　**Fax** 661-7503
HP http://www.kmnh.jp/
発行:いのちのたび博物館　ミュージアムティーチャー

夏を代表する七夕の星座たちが、夜空に輝いています。そろそろ七夕飾りの準備を始める学校もあることでしょう。国内では、今、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいますが、気を緩めることなく、引き続き感染防止を心がけることが大切ですね。

さて、いのちのたび博物館では、感染防止対策を徹底しながら、夏の特別展「THEモンスター展Ⅱ」や企画展「蓮　ー極楽浄土の花ー」を予定しています。夏休み期間中も開催していますので、是非、みなさんでお越しください。

夏の特別展「THEモンスター展Ⅱ　ー攻撃と防御ー」

開催期間　令和3年7月17日（土）～9月26日（日）

生き物は、昔から食べ物を得るため、子孫を増やすために、生き残りをかけて争ってきたよ。

そのために、少しずつ、体のつくりや能力を変えていった生き物もいるんだ。

その中には、すでに絶滅した生き物や、今でも生きている生き物もいる。そんなすごいモンスターたちに会いに来ないかい？

闘え！守れ！生き残れ！

エレモテリウム

新生代に生きていた巨大なモンスター

（オオナマケモノの一種）

画像協力

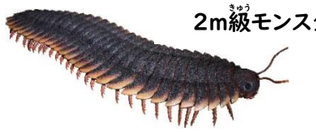
（いわき市石炭・化石館『ほるる』）

コモドオオトカゲ

獲物を追いかけて噛みつくモンスター！

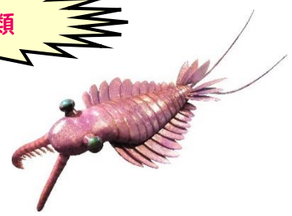
アースロプレウラ

古生代石炭紀の2m級モンスター！



アノマロカリス類

古生代カンブリア紀最大のモンスター！



企画展「蓮ー極楽浄土の花ー」

令和3年6月21日（月）～8月22日（日）

蓮は、仏教と結びつきの強い花です。昔の人々は、亡くなると極楽浄土で蓮の葉の上に生まれ変わると考えていたようです！

【左図】永貞院像
【右図】藕糸織仏画
広寿山福聚寺(小倉北区)所蔵
※ 藕糸→蓮の茎で作る糸

開催場所
歴史ポケットミュージアム(3F)
※ 常設展入場券で観覧可

ミュージアムのタネ

月を見よう

満月の１日前「小望月」

月は美しいですね。日によって形や見える時間と場所が変わりますし、見た目の大きさや色も変化します。月は比較的近い天体なので（といっても 38万キロメートル以上離れていますが）、双眼鏡を使えば表面のクレータの様子などもよく見えます。

ここでは月にまつわるこぼれ話をいくつか紹介します。

(1) 形の変化

月は約28日かけて、新月→三日月→半月→満月→半月→三日月→新月と形が変化します。その理由は、教科書にあるように、月が地球の周りを約28日で一周しているからです。満月前の半月と満月過ぎの半月は光っている側が逆になり、見える時間も夕方と明け方になります。その理由も考えてみましょう。

(2) 模様はいつも同じ

月の形は日々変化しますが、模様はどうでしょう？いつも「ウサギの模様」のある面が見えます。月の裏側は、基本的に地球から見えません。その理由は、例えて言うと「月が前を向いて周っているから」です。誰かの周りを別の誰かが前向きに回るとき、いつも顔の同じ側（例えば、左回りなら左顔）だけが見えるというのと同じです。

(3) 大きさは変わる？

夕方の低い空に昇る満月は大きく、夜中の高い空に輝く満月は小さく見えると思いませんか？実はこれ、目の錯覚なのだそうです。五円玉を手に持って腕を伸ばすと、その穴に満月がすっぽり入ります。夕方の大きく見える満月と夜中の小さく見える満月で試してみましょう（試した後でも私には低い満月が大きく見えますが・・・）。

(4) 月の呼び名

月には様々な呼び名があります。満月は「十五夜」とか「望月」とも呼ばれます。他にも形により「三日月」、「十三夜」、「十六夜」などと呼ばれ、海外でも「スーパームーン」などの呼び名があります。冬のさえ渡る「寒月」、春の霞んだ「朧月」、水面に映る「水月」といった風流な呼び名もあります。

(5) 食べる月

月にちなんだ食べ物やお菓子もたくさんあります。例えば、クロワッサンというパンはフランス語で「三日月」という意味です（そういえばあの形は！）。私の経験では「満月」という京都の和菓子が美味しかったですね。日曜日しか売っていないのでなかなか食べられませんが。食いしん坊な人はぜひ世界の食べる月をコンプリートしてみて！

(6) 歌う月

月にちなんだ歌もたくさんあります。童謡なら「荒城の月」や「月の砂漠」、J-POPなら絢香の「三日月」や嵐の「Crazy Moon～キミ・ハ・ムテキ～」、海外ならシナトラの「Fly Me To The Moon」などなど。古くは和歌にも月を題材にした歌は多く、例えば百人一首の中にはなんと 12首もあります。

大むかしから人々は月を眺めて暮らし、美しさや愛着を感じてきたのでしょう。皆さんも月を見上げて一息ついていただけたらと思います。なお、いのちのたび博物館では月の石（アポロ宇宙船が持ち帰った本物）を展示しています。「月をもっと身近に感じたい！」という人はぜひ見に来てください。

（学芸員　森 康）

月の石（いのちのたび博物館で展示中）